

地域医療連携推進室からのお知らせ

地域医療連携に関するアンケート調査の結果を報告します

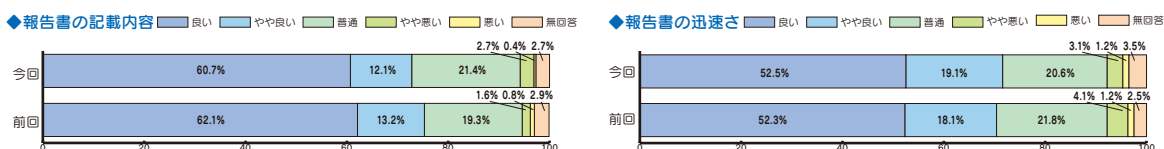
本年3月に、地域医療連携医の先生方に、地域医療連携に関するアンケートを実施させていただきました。その集計結果の一部をご報告いたします。

患者さんをご紹介いただいた際の当院の対応等についてお聞きしましたが、2年前に実施した調査結果と比較し、評価が上がった項目のある一方で、評価が下がった項目もいくつかありました。高い評価を得られるよう改善を進めていきますので、よろしくお願いたします。

【アンケート対象医療機関：455 医療機関 回答のあった医療機関：257 医療機関 回答率 56.5%】

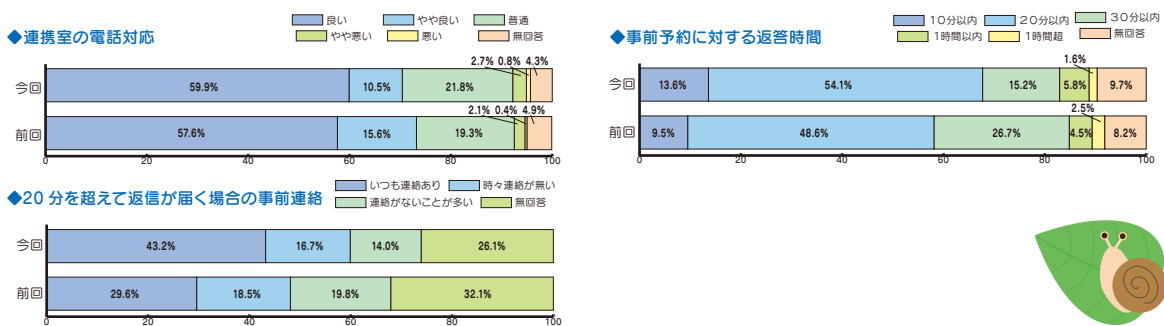
I 報告書について

「報告書の迅速さ」について、「良い」、「やや良い」を合わせた率は、前回の70.4%に対して、今回は71.6%と微増となりましたが、「報告書の内容」については、「良い」、「やや良い」を合わせた率は、前回の75.3%に対して今回は72.8%と評価が下がりました。



II 地域医療連携推進室の対応について

「事前予約に対する返答時間」、「20分を超えて返信が届く場合の事前連絡」の項目については、前回よりも評価が上がりましたが、それでも20分を超える返答時間の割合が22.6%、20分を超える場合に事前の連絡がない割合が30.7%を占める結果となりました。「電話対応」については「良い」、「やや良い」を合わせた率は、前回の73.2%に対して今回は70.4%と評価が下がりました。



開放型病床カンファレンス開催スケジュール

日時	講師・演題	(お知らせ)
平成26年6月26日(木) 19:30~20:30	症例検討 / 腎臓内科医長 大鐘 邦裕 ミニレクチャー / 眼科医長 天谷 陽子	6月の開放型病床カンファレンスから開始時間を30分繰り下げ19時30分からとしました。終了時間は変更ありません。
平成26年7月24日(木) 19:30~20:30	症例検討 / 内分泌代謝科 ミニレクチャー / 摂食・嚥下障害看護認定看護師	
平成26年9月25日(木) 19:30~20:30	症例検討 / 外科 ミニレクチャー / 救命センター	

福井県立病院 地域医療連携推進室

TEL/(0776)57-2900
FAX/(0776)57-2901※
受付時間/8:30~18:00
月~金(祝祭日を除く)

※上記のFAXについては、時間外・土・日曜
日および祝日は救命救急センターへ切り替わります。

緊急の場合は救命救急センターへ
お願いします。

救命救急センター
TEL/(0776)57-2990
FAX/(0776)57-2991



健康長寿の福井
福井県

新聞やテレビで、県の情報をキャッチ!

新聞 「県からのお知らせ」(毎月1日、15日に掲載)
テレビ番組 「おはようふくい730」(FBC/日曜)
// 「ほっとふくい」(ftb/1・3土曜)
// 「まちかど県政」(FBC、ftb/日曜)
広報誌 「県政広報ふくい」(年6回発行)

※ラジオやインターネットでも提供中。
問い合わせ：県広報課 TEL / 0776-20-0220

福井県立病院 理念 私たちは、総合的かつ高度な医療の提供を通じて、県民に信頼され、心あたたまる病院をめざします。

〒910-8526 福井市四ツ井2丁目 8-1 http://info.pref.fukui.jp/imu/fph/

CONCERTO

第35号

就任のご挨拶

~福井県立病院、その高き使命のもとに~



院長 村北 和広

連携医の先生方にはいつもお世話になり深謝いたしております。このたび院長に就任するにあたり一言ご挨拶を申し上げます。福井県立病院へ着任したのは昭和56年でした。早いものであれから30年が過ぎました。院長就任中にやらなければいけないこと、まず、第6次福井県医療計画における福井県立病院の位置付け、高度急性期病院を目指しています。看護師の7:1の導入は差し迫った問題です。平成28年度の導入をめざしています。昨年新装移転オープンしたがん医療センター外来部門は好評で、さらに今年から「がん婦人科」もがん専門外来部門へ移転いたしました。「がん治療日本一」を目指しています。また、4月からは、入退院支援室を開設し、入退院するにあたって、より充実した対応ができる体制を整えました。世界最新の放射線治療装置(リニアック)の更新整備はもうまじかに迫っています。本年度は病院横に建物の増築、平成27年に完成予定です。最後に、病院の基礎は病診連携であります。このたび「ふくいメディカルネット」の運用が始まりました。県立病院など14の基幹病院と県内の医療機関をネットでむすび画像・検査結果・処方等の情報を共有するシステムで、すでに169名の先生方が登録利用開始しておられます。特に当院の連携医におかれましては129名の先生方にご登録を頂きその熱心さに感謝しております。紹介率・逆紹介率の向上、開放型病床の利

用促進はもちろん、連携医登録の勧誘、円滑な紹介業務の実施、20分以内での紹介予約受付の返信、紹介患者受診報告書の当日作成など主治医・連携室職員・退院調整看護師・MSWが一丸となって取り組んでいきますので、今後ともよろしくご指導ご鞭撻のほどお願いいたします。



◇2014.05.15 看護週間行事 華展コーナー



◇燃える緑の中で

就任のご挨拶

～新体制の下、職員一同、一致団結で～



副院長
がん医療センター長
橋爪 泰夫

平成26年4月より、県立病院副院長・がん医療センター長に就任しました橋爪です。外科長、地域医療連携推進室担当も引き続き兼任することになりましたので、一言ご挨拶をさせていただきます。

日頃、連携医の先生方には県立病院に多くの患者さんをご紹介いただきありがとうございます。新病院開設後10年が経過し、医療機器や電子カルテの更新、今回の診療報酬改定による病床機能の見直しや7対1看護の導入など、当院には待ったなしの解決すべき課題が山積しております。村北院長の新体制の下、職員一同が一致団結して協力して取り組んでいかなければならない状況であり、副院長として尽力をつくして

いく所存であります。

がん医療センターにつきましては、昨年の4月に新フロアに拡張、移転をして1年が経過しました。今年の3月からは、がん婦人科外来も開設し、がん種ごとの外来部門や外来化学療法室の充実が図られており、がん地域連携拠点病院としてより良いがん治療に取り組んでいきたいと考えております。

また、ふくいメディカルネットの利用促進、ホームページの大幅な見直しによる情報発信力の強化や入院支援室の開設など、県立病院を利用される患者さんと連携医の先生方への利便性の向上を目指していきたいと思っておりますので、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻をお願いします。



就任のご挨拶

～信頼され、選ばれ、そして満足していただける病院へ～



中央医療センター長
吉川 淳

本年4月1日付けで中央医療センター長を拝命しました放射線科・吉川です。

昭和57年に金沢大学を卒業し放射線科に入局し、主に肝の画像診断とIVRを担当しました。県立病院には平成11年4月に赴任しましたが、放射線科医、特に画像診断・IVR医というやや特殊な立場で勤務してきましたので外来、入院患者をほとんど受け持ったことがありません。こうした中で今回、中央診療部門の外来・入院運営全般を担当する立場となり、この4月からは当惑と発見の毎日です。

連携医の先生方から安心して患者さんをご紹介いただくためには、迅速な対応、十分な連絡体制、退院

時の逆紹介などといったこれまでも進めてきたシステムの強化・改善といった面も重要ですが、何よりも病院全体での診療の質の向上が最重要であると考えています。連携医の先生は、学会・論文発表といった点はもちろんですが、取り交わされる毎日の文書や、学会、勉強会での症例呈示は発現内容、なによりも治療成績といった点から判断されると思います。先生方の信頼を得るために、こうした地道な毎日の積み重ねを大切にしていきたいと考えています。

当院は多くの高度の専門医療の他、唯一の県立病院として多く政策医療も担当する一方で、臨床研修医病院としても北陸では随一の人気を誇ります。病院としての体制、設備機器も充実し整備も順調ですが、残念ながら優秀な初期研修医の後期研修医としての採用が難しいなどの問題点もあります。こうした改善すべき点もよく認識し、連携医の先生に信頼され、患者さんにも選ばれそして満足していただける病院になれるように尽力していきたいと思っております。

2014年3月 陽子線がん治療センター 新治療室運用開始!

～世界初の機能で、より精度の高い治療をめざして～

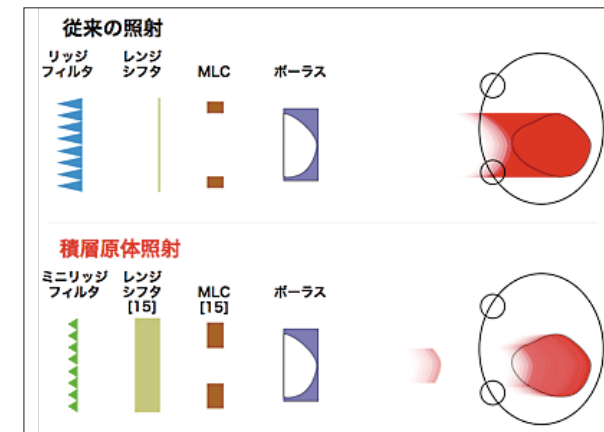


陽子線がん治療センター
医学物理士
佐々木 誠

福井県立病院陽子線がん治療センターは今年の3月でもって4年目に突入しました。年々治療患者数が増える中、これまで2つの治療室で治療してまいりましたが、この度3番目の治療室の運用を開始し、より多くの患者さんを迎えられるようになりました。新治療室は、これまでの陽子線治療技術に加え、世界初の新しい2つの機能を搭載しています。1つは『積層原体照射』、もう1つは『CT自動位置決め』といいます。これらの新機能について紹介します。

積層原体照射

積層原体照射とは薄い層の陽子線を深いところから浅い方へ順々に積み重ねるように照射していき、同時にマルチリーフコリメータ(MLC)で層の形を変えながら、照射領域をがんの形に合わせる照射方法です。この方法によって、がん周辺の正常組織に対する余計な線量を大幅に減らしつつも、がんへの線量集中度はより高くなりますので、副作用の低減と治療効果の向上が期待されます。この方法による治療は、特に放射線に弱い臓器が複雑に散在する頭頸部に対して有効であると考えられ、主に頭頸部腫瘍に適用します。



◆積層原体照射 イメージ図

CT自動位置決め

10日以上にわたる陽子線治療期間中に、患者さんの体調の変化や治療の効果によって、がんやその周辺組織の形態が変わってしまうことはしばしばあります。従来は照射直前にX線TVで位置確認を行っていましたが、この方法では骨は確認できても、軟組織の形態変化までは対応できません。そこでX線TVに代わってCT装置を利用することで、日々の患者さんの状態に適応した高精度位置決めが可能になりました。現在は前立腺がん治療において利用していますが、ゆくゆくはX線TVでは認識が困難な肺がんや体幹部の臓器に対しても適用していく予定です。また自動で計算・寝台移動ができるので、治療時間が短縮され、患者さんの負担軽減の効果も発揮しています。



◆CT自動位置決め (H26.3.15プレスリリースの様様)

